



東地中海地域ニュース

イスラエル・パレスチナ：ガザ地区への制裁の開始 (10月29日付イスラエル各紙)

1. 10月28日、イスラエルはガザ地区への制裁として、燃料供給の削減を開始した。
 - (1) ガザ地区のパレスチナの燃料庁によれば、ガソリン供給量が通常の日量15万リットルから9万リットルへ、軽油供給量が通常の日量35万リットルから20万リットルに削減された。ガザ地区へ燃料供給するイスラエルのドル・アロン社は、国防治安当局の指示でガソリン及び軽油の削減を実施したことを認めた。来週、更なる削減が行われる予定。
 - (2) ガザ地区への電力供給の削減撤回を求め、幾つもの人権団体が最高裁へ上訴した。翌29日、マズース検事総長が同削減計画につき審議するが、審議の間は削減されない。

2. 28日、ガザ南部スファ通行所が無期限に閉鎖された。
 - (1) 同通行所は6月のハマスによるガザ地区制圧後、テロ警告を受けて閉鎖されたカルニ通行所の代わりに使用され、一日にトラック100-120台ほど、ガザ地区への商品移送の殆どは同通行所で行われていた。今後のガザ地区への商品移送は、一日にトラック約55台の通行が可能なケレム・シャローム通行所で行われる。
 - (2) 先週、イスラエルはPAに、同通行所のパレスチナ側を拡大工事できるように建設材料を渡した。28日、国防治安当局は、ケレム・シャローム通行所へのカッサム・ロケット及び迫撃砲による攻撃は、自動的にその日の通行所の閉鎖をもたらすと述べた。

3. 28日、ファティ・アブ・マグリーPA保健庁長官は、国際組織、ドナー諸国及びEUに対し、ガザ地区に必要な供給を削減するとのイスラエルの脅しは、140万の人々に対する罰であり、それら措置は保健庁及び保健機関の活動に影響を与える。国際組織に対する即時介入を求め、イスラエルの行為が市民及び病人の保護を求めるジュネーブ条約に違反するものとみなすよう求める、との緊急書簡を発した。

4. 「イエディオット・アハロノット」紙の論説
 - (1) 制裁の決定は失敗の組み合わせである。第一に、制裁はカッサム・ロケットを発射する者ではなくガザ住民を対象にしており、住民をハマスとテロに向かわせる。第二に、制裁は倫理及び国際法に反する。第三にPA及びアラブ穏健派諸国との対話の努力に沿っていない。
 - (2) ハマスにとって制裁の決定は良いニュースである。制裁は、ハマスにプロパガンダの材料及びガザ地区の管理に失敗した言い訳を与える。今後、燃料、食品、人道物資が不足した場合、全てイスラエルの責任とされる。
 - (3) 何故バラク国防相はこのような馬鹿げた行為に及んだのか。それは、カッサム・ロケット問題に解決策がないからである。しかし、バラク国防相のみに苦言を呈するのは問題がある。オルメルト首相、リブニ外相、ペレス大統領、普段は話し続ける議員たちも皆、この問題に関して口を閉ざしている。